

日付:2015年2月22日／聖書:出エジプト記3:1-10 マタイによる福音書11:28-30

主題:「神の‘全能’」

私たちの信じる神はどんな神?…聖書の答えの代表は、旧約の「全能の神」、新約の「愛の神」でしょう。でもこの2つが真実なら、どうして世界はこんななのか…そんな疑問を抱いたことはないでしょうか。テレビや新聞が報じ、私たちが身近に体験する出来事を真剣に受け止める時、どうしてこんな世界を神はそのままにしてるのか〜ドストエフスキーが記したように、たった一人の子どもの流す涙に何も応えず済ませてしまう世界がこのままでよいはずはないのです。それなのに!!?...叫んだことはありませんか。

私は20歳の秋に十字架のイエスと出会い、「愛の神」を信じました。しかしその翌年に忘れられない出来事が続けて起き、どうしてこんなことを神は許すのかと叫びました。答えのないまま10年余が過ぎ、喘息を患う兄が50歳を前に死の床に就きました。救急車で入院した病状は悪化し、苦しい呼吸を続けていました。私は「あなたは、人生の全てをあなたに献げた兄を、こんな苦しみの中で終わらせるのか」と祈り訴えました。そこに駆け付けた兄の妻兄弟の牧師がマタイ福音書を引いて語ったのです「わたしの軛は負いやすい」二人用の軛をイエスが傍に並び負って下さるからだ…と。今も兄と共に軛を负っているイエス様を信じよう。その言葉を胸に祈っていると、兄と並んで同じように胸を筆り苦しむイエスがベッドの上に見えたのです。同時に、私と一緒に祈るイエスの息が私の頬を撫でるのも覚えたのです。そうだ、復活のイエスがここにいて兄と共に苦しみ、また私と共に祈ってくださる! その時「全能の神」が初めて胸にストンと落ちたのです。

モーセを召し出した時、神は高くからではなく、低く柴の中から語られました「私はエジプトにいる私の民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った」。圧迫される者の苦しみと痛みを自らの身において見、聞き、知り、彼らの間に自らをおいて導かれる方が私たちの神。そのために私たちを今も召し、求めておられる神なのです。

様々な苦難において私たちは「地の基が震え動く」体験をします。その時、私たちの思い描く世界のイメージと共に、それまでの「神」も消滅してしまいます。しかしその時が十字架のイエスに示された「全能の神」「愛なる神」を知る時なのです。今日もこの神の「全能」を信じ、主の勝利を望みつつ歩んでいきたいと願います。(中原)